

新たな基地建設争阻止！ 戦争に突き進む野田打倒！



「原発なくせ！基地なくせ！」350人がデモ（昨年5月14日、那覇）



「さようなら原発」集会に6万人が結集（東京・代々木、昨年9月19日）

5月沖縄闘争へ

本日3・11福島闘争に結集されたすべての仲間のみなさんに、5月沖縄闘争への総決起を訴えます。

北朝鮮・中国侵略戦争策動を許すな

第一に、オバマと野田による北朝鮮・中国への侵略戦争策動を許すなということです。

オバマ政権は昨年11月17日、オーストラリアでアジア太平洋重視の戦略を発表しました。そして、1月5日には中国とイランを脅威と名指した新軍事戦略を打ち出しました。中国との戦争を想定した「エアシーバトル構想」の具

エア・シーバトル構想

- (1) 中国側の新型対艦ミサイルを破壊するための空・海軍共同作戦
- (2) 米軍用衛星の機動性向上
- (3) 中国側「接近阻止」部隊への空・海両軍共同のサイバー攻撃
- (4) 有人無人の新鋭長距離爆撃機の開発
- (5) 潜水艦とステルス機の合同作戦
- (6) 海・空軍と海兵隊合同による中国領内の拠点攻撃
- (7) 空軍による米海軍基地や艦艇の防御強化

体化として、ミサイル射程外に位置するグアムの拠点化や沖縄海兵隊の一部巡回配備、東南アジア諸国との軍事演習や武器供与を通じた対中国包網の構築など、アジアにおける米軍再編に一気に動き出しています。

重大なのは、金正日の死に揺れる朝鮮半島情勢

5月沖縄闘争スケジュール

- 5月12日(土)
戦跡めぐり、那覇国際通りデモ、「復帰」40年沖縄集会
- 5月13日(日)
基地見学、県民集会、全国学生集会
- 5月14日(月)
辺野古の浜見学、名護市内デモ

に介入し、北朝鮮政権を転覆する戦争重圧をかけていることです。在韓米軍は2月以来、韓国軍とともに「キーリゾルプ」「フォールイーグル」という大規模な軍事演習を実施しました。この3月には、在沖海兵隊と韓国海兵隊1万人を投入して作戦計画「5027」にもとづく過去最大規模の上陸訓練を実施しようとしています。

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 <http://www.zengakuren.jp/> mail_cn001@zengakuren.jp



起きていることは、大恐慌下で没落にあえぐアメリカが、生き残りをかけたアジア争奪戦、中国（・北朝鮮）との全面戦争に踏み切ったということです。

他方、争奪戦から脱落しつつある野田政権は、この戦争情勢に食いつき、安保の強化をテコに戦争国家化を推し進めようとしています。野田は5月連休中にも訪米し、日米軍事協力のガイドラ

イン改定を含めた「日米安保共同宣言」を発表しようとしています。

再びのアジア侵略を許すな！ 戦争へと突き進む野田政権打倒！ 今年の5月沖縄闘争は、何よりこのオバマと野田の新たな戦争策動を阻止する闘いです。

沖縄の前線基地化を粉碎しよう

第二に、沖縄（ - 日本全土）をこの侵略の前線基地にするための米軍再編攻撃を粉碎しようということです。

現在、米軍再編の見直し協議が報じられていますが、この協議の核心は、北朝鮮・中国侵略戦争のための日本の動員、とりわけ沖縄の前線基地化ということです。

政府は政府やマスコミは、「沖縄の負担軽減」などと報じています。しかしこれは、再編攻撃の本質を隠し、「沖縄か県外か」と分断をあおるとんでもないデマ宣伝です。

実際彼らは何を宣言しようとしているのか。辺野古「移設」方針はあくまで堅持する。その上で、「移設」が進まないから普天間基地を改修強化しオスプレイを配備する。もはや95年の少女暴行事件に対する沖縄の怒りを受けて約束した普天間返還すら公然と踏み破るということです。

さらに、第3海兵遠征軍司令部や第31海兵遠征部隊の沖縄残留ということも報じられています。結局、グアムに移転するといわれていた司令部も侵略部隊の中核部分も沖縄に残るということです。

野田政権は、さらに対中国部隊として与那国・南西諸島への自衛隊配備をねらっています。

沖縄を再び戦争の島とする再編攻撃を絶対に許してはいけない！ 普天間即時撤去・辺野古新基地建設阻止！ 全国から沖縄に結集し、安保粉碎・基地撤去の声を上げよう！

フクシマとオキナワの怒りは一つ

第三に、フクシマの怒りとオキナワの怒りは一つです。そして、ここにこそ戦後の日本のあり方を根底から問い、核と原発をなくす力があるということです。

「福島原発は、日本が核武装し、核戦争をできる体制をつくるために建設されました。沖縄の米軍基地は...アジア侵略戦争のためにつくられたものです」「原発労働者をはじめ、地域住民は、生活も雇用も原発に関わらざるを得ない状況が国策によってつくられていった。多くの労働者・住民がふるさとを追われ、いつ戻れるかもわからない。60年以上も米軍基地に土地を奪われ続けている沖縄の怒りこそ、福島の労働者・農民・漁民たちの怒りと同じものです」（沖縄の米軍基地で働く労働者）

フクシマと沖縄の構図は同じであり、その怒りも一つです。そして核と原発、安保。ここにこそ、一握りのブルジョアジーのために労働者の命と生活を犠牲にしてきた日本帝国主義の姿があります。

本日の集会には沖縄からも参加しており、同時に沖縄現地でもN A Z E N沖縄結成の集会が開かれています。フクシマの怒りと沖縄の怒りを一つにして、この腐りきった支配の構造を根底から覆していこうじゃありませんか！

復帰40年迎える革命の火薬庫 = 沖縄へ

最後に、復帰40年を迎える沖縄が私たちに問うているものは何かということです。3・11から1年の今日を私たちがここ福島の地で迎えたように、今年で沖縄復帰40年を迎える5月15日を私たちがいかに迎えるのかということが問われているのではないのでしょうか。

沖縄は1950年朝鮮侵略戦争の最中に結ばれた日米安保条約によって、戦後も一貫して本土と分断され、基地の島の現実を強制されてきました。しかし、沖縄の人々は、こうした現実の中からいくたびも島ぐるみの怒りを爆発させ、アメリカのアジア支配と日本政府を揺るがしてきました。

60年代に爆発した本土復帰闘争は、本土 - 沖縄を貫く沖縄奪還、安保粉碎・日帝打倒の闘いとして爆発しました。「労働者は死んではならない。死すべきは基地だ」という基地労働者の壮絶なストライキは、基地の機能をストップさせ、日米の支配者たちを震え上がらせました。

当時の政府は72年5月15日、基地を残したペテン的な返還を強行しました。しかしそれ以降5月15日は、沖縄からすべての基地をなくすまで止むことのない「怒りの日」として日本階級闘争の歴史に刻まれ、毎年全国の労働者・学生の手で闘われてきたのです。

復帰40年を迎える今年の5月15日は、本土と沖縄の団結によって闘われてきた辺野古闘争が米軍再編と日米安保を決定的に追いつめる中で迎えています。他方、オバマの新軍事戦略のもと、沖縄の基地強化と安保強化が新たな形でねらわれる中で迎えています。沖縄の闘いを真に爆発させ今こそ米日帝国主義にとどめをさすのか、新たな戦争策動を許すのか。問われているのは本土の私たちではないでしょうか。「沖縄か県外か」という分断と制動を突き破る沖縄現地への大結集が勝敗を決めるカギです。本日の福島闘争の高揚をもって、いざ5月、革命の根拠地・沖縄へ！